

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch
公益社団法人 日本建築学会九州支部

MAR.2022

BULLETIN Kyushu BRANCH

九州で活躍する建築家のための情報誌



Contents

支部長挨拶	P2
オピニオン	P3-P7
支部長漫遊記	P8-P10
おしえて	P11-P12
とりせつ	P13-P14
トピックス	P15-P16
よかもん	P17
デザインレビュー2022	P18-P21
わさもん	P22
委員会報告	P22-P25
地域会活動報告	P26-P33
編集後記	P34



支部長挨拶



松山 将勝（九州支部長）

桜の花も咲き日ごとに春の訪れを感じる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

九州支部の会報誌として年4回ブルテンを発刊しておりますが、早いものでこの号が2021年度の最後のブルテンとなります。対面での活動が厳しい状況の中、支部活動や各地域会の活動をできるだけ分かりやすい形でお届けしたいとブルテンを一新し配信して参りましたが、改めて2021年度の活動を振り返りながら総括したいと思いません。

支部長を拝命し丸2年が経過しましたが、1年目はコロナ禍に翻弄され、殆ど成果を生み出せないまま終わりました。2年目を迎えた今年度はJIA本部との関わりが深まる中、組織の編成や会員減少問題などJIAが抱える課題や設計業界全体で取り組まなければならない課題が見え始め、九州支部でも新たな取り組みを始めています。

昨年10月に九州・沖縄設計4団体（JIA、建築士会、建築士事務所協会、JSCA）による九州・沖縄設計4団体災害ネットワークが確立されました。これは熊本地震の教訓から、九州で未曾有の大災害が発生した場合の備えとして、設計4団体が団体の枠を超えて共に災害支援活動に取り組むというものです。設計4団体による広域での災害ネットワークの構築は全国でも初の試みとなります。熊本地震では長期化する支援活動に単体で取り組むには限界がある事を私たちは経験しました。JIAが幹事役となり主体的にまとめたこのネットワークは、必ずや未来の成果として現れるものと確信しています。

JIAに所属する事の価値とは何か。若手建築家からその問いかけをされる度に、その存在意義を自らの態度で示していかなければならないと思立ち、支部長漫遊記をスタートしました。これは私自身が各地域会に出向き、JIA会員か否かに捉われず各地域で精力的に活動している若手建築家に自作を語ってもらい、参加者全員で忌憚のない議論を交わそうと始めた企画です。今年度は鹿児島、熊本、長崎、福岡で開催し、多くの有能な若手に出会う中で、これからの九州建築界を牽引する人材が豊富である事を肌で感じ、彼らが建築家としての地位を確立できる後押しをJIA自らが出来ないかと「九州建築新人賞」の創設に向けてワーキンググループを立ち上げ議論を始めている所です。財政的に永続的な運営ができるかが大きな課題ですが、来年度の準備期間を経て2023年度の創設をめざしていきたいと考えています。

支部事業はこれまで一部の会員が運営を支えている傾向が強く、残念ながら支部全体で公益事業に取り組む体制には至っていない実態が課題でもありました。そこでバラバラであった活動体を九州支部事業委員会に集約し、それぞれの事業を教育支援委員会と活動支援委員会に位置づけ、全ての事業に各地域会の担当を配置し、執行部がまとめ役を担う組織に編成しました。その事で支部事業の情報を各地域会に素早く伝達する事が可能となり、活動への参加を促す環境づくりを進めている所です。

九州建築界の未来への人材育成もJIAが担うべき大切な役割と考えます。学生デザインレビューは長年に渡りJIAがサポートしている事業ですが今年度、九州支部では学生会員による部会を創設し、既に30名の学生が入会しています。主には毎年のデザインレビュー学生実行委員会が円滑に立ち上がる事を目的としています。学生との交流がデザインレビューだけに留まらず、オープンデスクの受け入れや九州での就職を促進する足掛かりになればと期待しています。2020年度からスタートしたデザインレビュー高校生レポーター事業や小学校への出前授業など、引き続き人材育成に取り組んで参ります。

今年度の特に主だった取り組みの報告となりましたが、継続事業も含めて九州支部の活動を今後もブルテンにてお届けして参りますので、引き続きご支援をいただければ幸いです。

最後に、今年の九州支部通常総会は5月21日（土）に開催致します。

今年は3年ぶりとなる対面での開催を計画しており、現在その準備を進めている所です。

総会後は、会員集会と懇親会も予定しておりますので、是非多くの会員の皆様にご出席を賜りますようお願い申し上げます。

総会に先立って、会員の皆様には総会資料をお届け致しますので、議案の書面表決や委任状のご返送をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

まだまだ不安な状況が続いておりますが会員の皆様におかれましては、体調など崩されませぬよう、どうか安全にお過ごしください。

地域会長として2年間を振り返る

3月号の巻頭の「オピニオン」コーナーは「地域会長・代表幹事として2年間を振り返る」をテーマに九州支部の8名の各地域会長、代表幹事としての2年間を振り返り、活動報告や思い出、今後の地域会活動に関してなど自由に執筆いただきました。



杉野 友紀 北福岡地域会長

地域会長として務めさせて頂いた2年間は、コロナウィルスの蔓延によるパンデミック状態の中であり、当初は社会的な活動が自粛ムードで、JIAの様な団体活動は当時会員からも社会からも歓迎されず、活動自体が非常に困難な状況であった事を思い出します。その様な状況の中でしたが、実活動が出来ない分、改めてJIAという団体の意義を私なりに捉える事（北福岡地域会では20年来継続している「日韓合同学生ワークショップ」という事業自体の意味や今後も継続していく事に対する意義）からスタートした事を記憶しています。

また、コロナ禍の中で社会の形態が変革していくなか、何も出来ない事への焦りもありましたが、東日本大震災や熊本地震での経験より、個人の建築家が社会にコミットするツールとしてのJIAという団体の持つ背景や実力には共感と理解があったため、改めて「日韓合同学生ワークショップ」という事業を見直し、そして活用する事により、社会の変革を考察しながら検討を行い、チャレンジ出来た2年間だったと思っています。

振り返ってみると、コロナ禍社会に対して真正面に取組んだ1年目は、問題を共有しながら、コロナ禍においても個から発信出来る公共の可能性を考え、2年目は移動の制限された中での国際交流に重点を置き、リモート環境下での日韓学生間の相互理解を促す企画に取り組みました。ワークショップという形態の利点を活かして、ただ課題に取り組むのではなく、約4か月間にわたり日韓の学生、講師（JIA 新人賞受賞者）と地域会会員で時代に沿った課題の提起や手法等について協議を行い構築していったので、他に無い経験の場を提供出来たと思っています。全体の活動としては、全国大会の参加や支部皆様との交流がほぼ制限されたのが心残りですが、次年度以降にそれらを期待しつつ、次期にバトンを繋げたいと思います。

色々とお世話になりました皆様、誠にありがとうございました。

福田 哲也 福岡地域会長



一言でいうと、もどかしい2年間でした。前地域会長から引継ぎの総会も対面開催できず、その後もほとんどの活動が中止やリモート開催となり、JIA活動で一番の楽しみでもある人と人との交流が図れなかった事が会員の皆様に申し訳なく、残念な思いであります。しかしながら、任期最後のごあいさつでネガティブな話もいかなものかと、もどかしいながらも前へ進められた活動を2つ紹介したいと思います。

まずは、2021年4月に福岡県那珂川市の駅ビル内で開催した建築展。福岡地域会では20年ぶりに開催する建築展で、「まちと建築」と題して、福岡市内街中で行うのではなく、福岡の建築家が他のまちに出かけて行って、まちの人と関わりながら、まちの人に触れてもらう建築展を開催しました。那珂川市は、新幹線博多南駅（車庫駅）を玄関口に都市部への抜群のアクセスと、市内後方には豊かな自然を有し、近年めざましい発展を続けるまちであり、この建築展をきっかけに訪れた人々も、その魅力を再発見したようでした。建築展は福岡の建築家と那珂川にプロジェクトをもつ建築家30名が参加し、それぞれ趣向を凝らした模型とパネル展示を行いました。10日間の開催期



まちと建築展集合写真



例会風景

間中には、参加建築家によるトークイベントや、若手建築家と会場の距離が近いラウンジトークイベントも行い、来場多くの方々から全体に高い評価をいただきました。また数字として来場者が1000人を超えた事も、我々のまちへのアプローチに対して、一定の評価を得られたと感じています。

もう一つは、「同じ時刻に同じチャンネルで」をコンセプトにスタートした協会オンラインセミナー。毎週金曜日の12:30から20分間、週替わりで協会がZOOMで行うセミナーで、時代に合わせた企画として今年度試行錯誤の中で開催し、他県の会員の視聴や会員事務所スタッフの視聴など一定の評価を得て、改善をはかりながら来期も継続開催していきます。

多くの仲間に助けられながら色々経験させていただいた2年、JIAの絆を改めて感じた2年、そして気づけば来期も地域会長を務める私。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



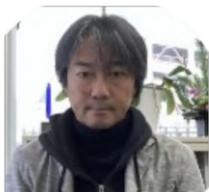
野中 毅 佐賀地域会長

「2年間で振り返る」と題材がありましたが、今回は佐賀の今というテーマで書きました。

佐賀県では、2024年に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（旧国民体育大会）が開催されます。この大会を一過性のイベントに終わらせることなく、地域の活力を生み出す象徴となる場所を創出するための機会と捉え、今後長きにわたり、夢や感動を生み出す県内スポーツの一大拠点として新たに生まれ変わらせることを念頭に、佐賀県の活性化に繋がるような施設整備を行う事業です。新たなまちづくりやライフスタイルが始まり、佐賀を光り輝かせるという決意を込めるとともに、整備エリアの「日の出」という地名にちなみ、このエリアを「SAGAサンライズパーク」と名付けました。建物構成は8,000人収容のアリーナ、国際公認プール、陸上競技場、それらを繋ぐペDESTリアンデッキとなっています。工事は来年完成予定で、現在急ピッチで行われています。（国際公認プールは2021年10月完成）佐賀地域会からは私と三原会員が設計・監理のメンバーとなっています



SAGAサンライズパーク完成予想パース



田中 健一郎 長崎地域会長

2年程前の懇親会の席でした。当時松山支部長候補から佐々木前会長を副支部長に任命したいので長崎地域会長を務めてほしいとお話を頂いた時から始まった気がします。恩師である佐々木前会長と当時松山支部長候補である方々からのご要望で、私の返事は「はいor YES」の2択しかございません。私自身も心を決めて「長崎地域会のために私ができることを務めさせていただきます」と会長職を拝命しました。

この2年間は今まで経験したことがないコロナウィルス蔓延の中での活動を余儀なくされました。集まることが出来なければWEB等を活用し接触をなるべく避けながら進めていくという方針を決め事業計画を見直しながら、また活動形式を模索しながらの運営だったと思ひ返しています。

長崎地域会は毎年著名建築家をお迎えして、広く建築家の仕事や役割を理解して頂くために、専門家のみならず市民・学生向けセミナーとしての講演会を開催致しており、この「市民向けの建築家セ

ミナー」だけは継続して行いたいと強く思っていました。

コロナ禍の中では遠方より講師をお招きすることはなかなか厳しい状況でしたので前々から考えておりました地元長崎において第一線で活躍されている若いプロフェッサーの視点で長崎に関連する事柄や、現在の取組みなど建築を通して講演いただき専門性をお互いに高め新たな発見や専門家同士のネットワークをつなげるとともに一般の方々にもJIAやプロフェッサーの周知を図る目的で企画を行い、さらにはシリーズ化も踏まえて進める事にしました。

最初に登壇いただいたのは、長崎へ来られてちょうど20年という節目にあられる長崎総合科学大学の山田由香里先生に、「20年で見た、長崎県の建築・町並み・景観」という演目にて講演いただきました。WEBでの開催は初めてでしたが、日本各地から100名近くの参加登録をいただいたことに驚き、また地元長崎をより深く研究された講演で新たな発見がいくつもあり大変有意義なセミナーだったと思います。

2年目には長崎大学大学院工学研究科システム科学部門 教授 安武敦子先生に「空き空間のマネジメント」という演目で講演いただきました。地元長崎の空家問題にエリアを集中して研究されており、なぜ空き家が生まれるのかという原因を緻密に探り解決に向けて取組む内容で、とても興味深く拝聴させていただきました。私たち建築家はこのような研究成果を通してまちづくりや建築を創造していく上で役だてていくべきだと感じました。

また支部長漫遊記ではコロナ禍の合間を見計らって人数制限と万全のコロナ対策を行い、リノベされた月と海ホテルを貸し切って行いました。若い建築家6名を招き登壇いただきましたが少人数で開催するにはとても勿体ない内容で著名な建築家の講演を聞いているような盛り上がりでした。詳細はJIA九州支部ブルテン（2021,12）をご覧ください。

この2年間は多くの事業はできておりませんが、諸先輩方が今まで継続し大切にしてきた事業はコロナ禍の中でも会員皆様のご尽力いただいたおかげで手法を変えてでもなんとか行えたのではないかと感じております。大変感謝申し上げます。

これからは新地域会長をサポートしていきたいと思っております。本当に2年間で難う御座いました。



月と海ホテル見学会



重田 信爾 大分地域会長

2020年4月に地域会長を拝命し、あっという間に2年が経過しました。まずは、この2年間の活動を振り返ります。

2020年度は5回の集合例会と1回のZOOMによるオンライン例会を、2021年度は5回の集合例会を行いました。例会では、新入会員の自己紹介プレゼンや協力会員各社からの情報提供…企業・製品紹介やウッドショックの現況など…を企画し、各回共大変有意義な内容となりました。

また、2020年度・2021年度と、大分県林産振興室からの協力を受け、木の匠育成事業に取り組みました。この事業は、JIA会員・非会員に関わらず、地域材を活用した建築物を推進する建築士等（大分県木造マイスター）を育成することを目的とし、住宅等4号建築物はもとより、中大規模木造・非住宅建築について、林業・材料や関係法令を踏まえた設計・施工技術、木造・木質の最新情報などを、最前線でご活躍の講師の皆様にご講義して頂きました。オンライン中心の講座となりましたが、いずれの講座も大変充実したものでした。

次に、大分地域会の構成についてです。この2年間で2名の仲間が加わり、2020年4月時点で17名だった会員が、現在19名となりました。協力会員においては、2020年4月時点で23社だったのですが、現在31社となり、我々の活動への応援が増えていると勝手ながら感じています。

新型コロナウイルスの影響がつかまつう2年間でした。毎月顔を合わせて開催していた例会や親睦を深める懇親会が行えず、公開での企画の検討を躊躇し、替わってオンライン等これまでと異なった方向からの取り組みの模索を繰り返してきました。そのような状況の中、大分地域会会員の皆様や協力会員の皆様の多大なご協力があり、何とか進めてこられたと感じています。この場をお借りして、感謝申し上げます。



例会風景



木の匠育成事業風景

そして、大分地域会は、現執行部でもう1期2年を務めさせて頂く予定です。この2年間をステップに、会員・協力会員の皆様と共に、より充実した地域会活動に取り組んで行きたいと思っております。引き続き、よろしくお願ひいたします。



堀田 実 熊本地域会長

みなさまこんにちは、色々和不慣れな中でしたが、地域会や本部、支部の皆様のおかげで無事つとめさせて頂くことができました。これまでを振り返って御礼とご挨拶に返させて頂きたいと思っております。

【JIA活動として】

・コロナ禍での活動

高井さんから地域会長のバトンを渡されたときには新型コロナウイルスにより世間の様相は一変しておりました。月例会のあとに連れ立っていく食事会どころか例会すらちゃんと実施できない状況で暗中模索が続きました。そのような中、九州・沖縄建築設計4団体懇談会への参加、リモート作品展、冊子の発行、くまもとアートポリスの協賛事業と併せた地域会作品展の開催を実施できたことは大変意義深く感じております。熊本地域会恒例の「ライティング・パーティー」は2年間に渡り開催できませんでしたが、次年度は盛大に開催できるものと信じておりますので、皆さんにお会いできることを楽しみにしております。

・地域会活動の承継

地域会が実施してきた活動を伝えていくことはとても大事なことです。資料などの引き継ぎには課題を感じていました。対策のひとつとして専用のSSDを購入し引き継いでいくようにしました。

・その他

JIAマガジン393号の「地域会長の声」というコーナーで熊本のニッチなローカル情報を紹介しました。娘が情報関係の仕事している手前、負けないように頑張ったつもりですが、...

また、本年2月にSDGsの「マニフェストリレー」に応募させて頂きました。コペンハーゲンに行く気満々でデンマークの美味しいものをネット検索してはニヤついて家族や社員に気味悪がられております。...

【事務所として】

・熊本地震の復興特需的な仕事が一段落したことで、県内の建築設計のしごとは厳しい状況ですが、4年半にわたり設計・監理に携わった横井小楠先生の自邸「四時軒」の復原



四時軒の写真

工事がやっと完成にこぎつけました。4月には開館される予定と聞いております。（写真）

末筆になりましたが、これからも熊本地域会活動、次年度地域会長へのお力添えをよろしく願いいたします。



越山 明典 宮崎地域会長

この期間は新型コロナと共に進んできた2年間でした。事業を計画しても実施できない。そもそも事業の為の会議も思うようにいかない状態でした。宮崎地域会では、設計4団体による建築セミナーを実施してきています。JIA新人賞受賞者を講師として迎え、会員などの作品パネル展示も同時に行う内容です。2020年度は、実施に向け会議を積み重ねてはきたけど、講師と我々共通の想いで、どうしても対面でやりたかったこともあり、コロナの状況も鑑み中止せざるを得ませんでした。2021年度は新型コロナが拡大していく最中での実施となり、どのような形で実施できるのか、当日を迎える迄確信は持てませんでしたが、万全の態勢で、実行委員会のメンバーで思い描いていた姿に近い形で実施できました。

成功した事業もある中、実施回数が激減したしまった事業も多数あり、なによりも人と人が交わることが困難だったのが非常に残念なことです。対面で議論を交わしたり、飲食を共にする時間の重要性、そこで育まれる関係性というものも確かにある。ということに改めて気づかされました。

一方、時代は大きな転換期、進歩を強制的に迎えることになってしまったともいえます。リモートで出来ることが大きく進歩し、リモートだからできることもある、ということも解りました。この新型コロナは、いずれは下火になっていくのですが、今回の時代を経験したことにより、試行錯誤を繰り返しながら、出来ることをこれからもやっていく。やっていけるという自信がついたような気がします。



肥後 潮一郎 鹿児島地域会代表

私はJIA鹿児島地域会の代表幹事を2020年度から2年間務めてきました。

しかしながらこの2年間を振り返ってみてJIAで活動したことといえば、オープンレクチャーを年間数回開催したことでありましょう。

コロナ禍ということではしょうがないといえばそうであるが、なかなか悩ましい2年間であった。

ただ、この2年間の世間での出来事は人生を振り返るきっかけになったと思っています。私だけの出来事ではありませんが、コロナ感染拡大による様々な活動の自粛。

戦争勃発による、日々メディア等々で流れてくる悲惨な状況での心の痛み、歴史的建造物が、爆弾で破壊されていく現状、ウクライナの方々への哀悼等々。

50数年の人生の中でこのようなショッキングな出来事があったでしょうか・・・

この2年間は、平和と平凡な日々が失われた2年間でした。

いかに平和で平凡な毎日が幸せだったのかということに気付かされました。

平和で平凡な日々が来年度以降来ることを切に願っています。

支部長漫遊記 IN 福岡



智原 聖治（福岡地域会）

第4回目となる恒例の支部長漫遊記は、2月24日に開催されたJIA福岡地域会の公開例会を兼ねて行われた。

会場はJIA福岡地域会の福田会長の事務所（（株）アーキタツ福岡一級建築士事務所）で、zoom配信にて執り行われた。（マスク着用や手指消毒等の感染症対策を徹底して行い開催された）



STUDIO MOUN 古城龍児氏・小畑俊洋氏

自分たちの活動を「建築」と「LIFE」という2つの軸で語ってもらった。

「建築」については、「潜在」という言葉使い、それを新たな価値を呼び起こすものとして定義し、自身の作品について語ってもらった。

小畑氏の両親の家である「雲仙の住宅」では、敷地の情報を注意深く読み取り、分析し、それらをエレメントとして抽出し、建築化する手法をとっている。「屋根」や「窓」といった建築的要素を用い、気候風土や既存母屋との関係をうまく解決し、今まで気がつかなかった新たな暮らしの風景となるよう計画している。



会場 風景

登壇者は若手建築家の中でもユニットで活動をしている2組で、1組目は「STUDIO MOUN」の古城龍児氏と小畑俊洋氏。2組目は「STUDIO MOVE Co., Ltd.」の中尾彰宏氏と齋藤慶和氏。

まず最初にSTUDIO MOUNから発表をもらった。

パートナーの古城氏と小畑氏は「株式会社CASE（福岡）」で同年代スタッフとして共に働き、STUDIO MOUNを立ち上げて3年目となる。



雲仙の住宅

店舗改修の「Matsuyama Pann」では、工事費180万円をいった超ローコストの条件のもと、様々なアイデアにより作品として昇華させている。床壁天井をつくるとそれだけでコストが足りなくなることから、「少ない手数」により空間化することに頭を切り替え、大川の家具製作



Matsuyama Pann

によってでる廃材や布（キャンバス）といった非建材を利用することに着目した。通常は見向きもされないモノ達に新たな価値を生み出している。

「LIFE」については、彼らが実践している様々な活動で、食を通したイベントやオリジナルプロダクト販売、また放置竹林へのブランディング化などそこでは社会とのつながりを意識したものであり、生活を切り売りするのではなく、生活そのものに新たな価値を見いだすことに他ならない。

この「建築」と「LIFE」が循環し、STUDIO MOUNとして建築家の領域を飛び越えた新しいスタイルがそこにあった。

続いて「STUDIO MOVE Co., Ltd.」の2人は建築家谷尻誠と吉田愛が主宰する「SUPPOSE DESIGN OFFICE」の同僚であり、株式会社スタジオモブを共同経営して7年目のユニットである。



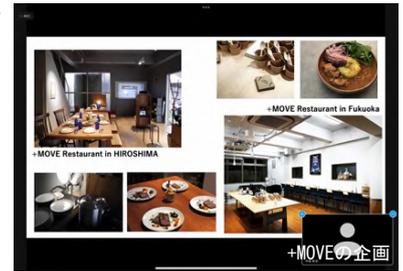
STUDIO MOVE 中尾彰宏氏・齋藤慶和氏

テーマを「分解」～多拠点化で生まれる事～とし、様々な取り組みを語ってもらった。

まずは各々の生い立ちや性格の違い、共通点等を話し、仕事の進め方や他のメンバーとの関わり方などを説明した。仕事場を固定せず、福岡と広島に拠点を置き、LINEでの打合せを基本としながら、必要に応じて顔を合わせるといった仕事の進め方は、一見すると非効率で意思疎通がうまくいかないような気がするが、彼らはお互いの性格の違いによって生まれる案の飛躍や勘違いによる別の視点への切り替えなど多拠点であることで相乗効果を生むことに価値を置いている。

仕事を進める過程で「企画」「設計」「編集」という3つの流れを掲げ、建築以外の分野の横断を積極的に行っている。

「企画」は1日レストランやエキシビションストアなどのイベントを自ら打ち立て、日常での人とのつながりや場づくりを通しそこで出会う多様な人材や機会をつくっている。

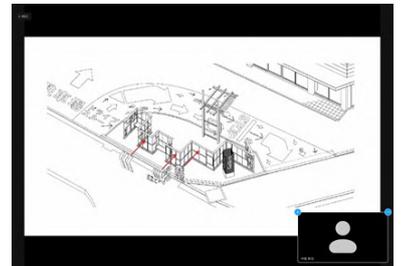


「設計」では「要素の分解」といった言語を使い、事例として「南阿蘇の別荘」を挙げた。目の前に広がる阿蘇五岳や自然との関係性を軸線や南中高度等により切り分け空間化し、自然に溶け込む建築をつくっている。



南阿蘇の別荘

「ドライブスルー査定 ガリバー高松中央通り店」では非接触型店舗としての建築の在り方を模索し、看板と建築を等価として扱うことで看板としての視認性とシンボル性を確保しながらもそれらによって空間化された場所を設計し、アートのような建築のような看板による新しい形式を生み出している。



「YELLOW BASE COFFEE（長崎県対馬）」では現場を訪れた際に対馬石の存在を知り、地域との深い関係性があることを計画に取り込み、この地域の拠点となるような店づくりを行っている。ここでは、企画の段階から参加し、ロゴデザインやプライスカード、名刺まで建築と一貫して提案し、対馬を表現したブランディングまでも行っている。



ドライブスルー査定 ガリバー高松

「編集」では、「+MOVE」という部門をつくり、出版や映像等のメディアによる情報発信を行っている。企画の

段階から情報をSNSにアップしたり、竣工後の施主インタビューや使われ方等を動画撮影するなど、ただ設計して終わりではない関わり方をしている。



彼らの活動は異業種とのコラボレーションや建築の枠を超えた職能など新たな建築家像を示しているように思えた。

【支部長との対談】※抜粋

(松山氏) 福岡地域会が支部長漫遊記で誰を人選するのか楽しみにしていました。どちらとも2名で協働している若手建築家ユニットで、多岐に渡るそれぞれの活動を聞きながら、私たちの世代とは異なる仕事のアプローチが見えた気がします。両ユニットとも30代で僕とは20歳以上の歳の差がある。世代間の違いを議論するのは発展性に乏しいけど、僕たちの時代は建築家をめざしてひたすら修行を積み、独立後も依頼がくるまで我慢して待ち続け、僅かなチャンスをもものにしながら少しずつ建築家としての地位を獲得していく。というのが王道であると信じて歩んできたが、2組の話しを聞いて、そうした思考や悲壮感が全然感じられない。建築というジャンルさえも飛び越えて固執することもなく、多種多様な仕事を楽しんでやっている。若い頃はつまらない仕事もある訳で、生きていく為の手段と自分を納得させるものだが、彼らの言葉を聞いていると、もがき苦しんでいるような姿はどこにも見えない。建築家像も随分変わったのかもしれないですね。

それでは、「STUDIO MOVE」から。

実は会場に来る前に、おふたりがどんな建築を手掛けているのか確認しようとおもいWEBSITEを見たが、その若さで仕事の数が多い事にまず驚いたのと、建築以外の活動も多岐に渡っていて、僕とは違う世界にいるおふたりの批評は非常に難しいというのが率直な感想です。その中でも僕が聞きたいのは、自分たちが生み出す建築が一定の評価軸にのりたいたいという考えがあるのかという点です。つまり、権威ある建築賞を獲りたい。といった建築家としての願望や目標があるのか。について考えを聞かせてください。

(中尾氏、齋藤氏) もちろんあります。今は建築だけに捉われずいろんな活動を通して経験を積んでいきたいと思っていますが、あくまでも軸足は建築である事にこ

だわりたい。いずれ自分たちの建築が評価して頂ける領域に辿り着きたいとおもっています。

(松山氏) それを聞いて安心した(笑)そこに辿り着くアプローチは違えど、建築家としての態度を伺えたのは嬉しい。

これからのおふたりに注目しています。

では、次に「STUDIO MOUN」について。

雲仙の住宅は、実家の建て替えという建築家にとっては、またとないチャンスだと思うが、上手にまとまりすぎていて、常識を逸脱するような若さ故のアプローチがあってもよかったのではないか。僕の実家もそうだが、暴力的でも両親は許してくれる(笑)

(小畑氏) 初期案はいろんな試みを挑戦しようと提案したが。父が建築士で施工も出来るので、なかなか意見が合わず対立をしていた。最終的には要望を汲み取りながら、環境に対して素直に解く事にしました。

(松山氏) 34歳と31歳の若いユニットで、これから可能性が無限大にあると思うので、飛躍できる次の機会を逃さないよう、頑張ってください。

最後に、両ユニットの活動には共通点も見られ、協働である事が彼らの独自性を生み出している要因であるとも思えた。最近、30代の建築家全般に思うことだが、彼らは建築というカテゴリーから敢えてズレながら他ジャンルとの共存を図り、これから社会的に必要とされる建築家像を示しているように思える。いま、多様性が求められる社会において、建築家に求められるものも変化してきていると思う。今回の彼らの姿にその一つがあるのではないだろうか。



建築設計の実践と研究教育による相乗的な建築創造を目指して



平瀬 有人 (福岡地域会)

佐賀大学准教授・yHa architects

2008年に1年間滞在したスイスから帰国後、地縁の全く無い佐賀大学に着任して早いもので13年が経った。当時はもともと土木系の佐賀大学理工学部都市工学科に建築都市デザインコースが2006年に誕生した直後で、スイスで勤務していた気鋭の建築家の設計事務所とは大きく異なる環境のギャップに驚いたのを覚えている。

しかし今から振り返ると、歴史や蓄積の無い建築系コースではあるが故に逆に新しい活動をつくりやすい教育環境の形成が現在できているのだと思う。現在の建築系の専任教員は保全再生デザイン・地域生活空間学・建築デザイン・建築計画学・建築史・建築環境工学・都市建築環境工学を専門とする7名で構成されるが(都市計画や構造は土木系教員が兼任)、建築系コースの立ち上げに尽力された故・丹羽和彦教授の意向もあり、新しく赴任した建築系教員はいわゆる学閥もなくバックボーンも多彩で、一つの価値基準に収束しない多様性がそれぞれの自由な活動を担保する状況をつくり出しているように思える。

授業や研究室での活動は、JIAマガジン2020年10月号連載〈スタジオ拝見・大学で教える建築家の建築家教育〉第一回にて「環境形成(ミリューデザイン)をめぐる実践と研究」として詳しくご紹介したので、本稿ではその他の研究的なプロジェクトについて紹介する。

■佐賀大学理工学部4号館改修／ラーニング・ループの教育環境(2019-21)

築35年の老朽化した校舎の改修計画に建築系教員が設計監修に関与し、単なる改修ではない既存の枠組みを超えた学習プロセスを創り出す〈ラーニング・ループ〉の建築系教育環境空間を創出した。



佐賀大学理工学部4号館改修

廊下に面してガラスで「見える化」した〈オープンラボ〉、プレゼンテーションに適した〈デザインスタジオ〉、美術家・野老朝雄氏の有田焼陶板作品の常設された外部に開かれた〈デザインギャラリー〉といった、教育型授業から学び型授業まで対応する機能配置とデザインによって学びが循環する仕組みである。さらに校舎の教材化・「見える化」により実践的な教育研究を可能にした。スケルトン天井により既存躯体構造の劣化補修部

分や空調・電気設備配管等を可視化し、柱に寸法感覚を養えるようなスケール表示サインを付加するなど、建築を学ぶ学生の生きた教材として活用している。

(佐賀大学理工学部4号館改修ワーキンググループ／三島伸雄・平瀬有人・宮原真美子・中大漣千晶・後藤隆太郎+佐賀大学環境施設部)

■JR肥前浜駅交流拠点施設／歴史的駅舎復原と交流拠点増築(2016-20)

2016年度に佐賀県鹿島市との共同研究〈肥前浜駅整備デザイン研究〉として肥前浜駅舎・駅前広場等デザイン基本計画を行った。その後デザイン検討会議メンバーとして、2017年度には佐賀県による駅舎の設計・監理、2018-19年度には鹿島市による駅前広場の設計・工事に携わった。痕跡調査等の歴史的考証を踏まえて1930年竣工の駅舎を復原し、歴史的駅舎との調和を意識しつつ模倣的であることを回避するように交流拠点増築の計画・設計をしている。再整備された駐輪場は駅舎を引き立てるように、駅舎の軒高さと合わせたシンプルな造形とした。全体的に新旧の要素が対峙しつつも渾然一体となった風景を目指した。

(肥前浜駅デザイン検討プロジェクトチーム／三島伸雄・平瀬有人・高尾忠志・増山晃太+三原建築設計事務所+建設技術センター+Takebayashi Landscape Architects)



JR肥前浜駅交流拠点施設

■ムーバブルアーキテクチャー研究／スクエアパネルによる可変建築(2021-)

物資運搬用木製パレットを元に考案された新建材スクエアパネル(共同研究者による実用新案登録済)を用いた可変的な建築デザインのフィージビリティスタディを

行っている。スクエアパネル工法は防災倉庫やイベントブースなどの仮設的な建築においては短期間で施工できる優れた工法ではあるが、災害時仮設住宅など居住空間としてある程度恒久的利用をするためには止水性能の確保が重要な課題である。そのため短期間で簡便に施工でき防水性・透光性・耐候性に優れたテント膜をスクエアパネルと組み合わせることで、意匠性が高く新規性の高いムーバブルアーキテクチャーの検討を行っている。

(共同研究チーム／平瀬有人＋志村製材・海野建設・山口産業・テツシンデザイン・yHa architects)



ムーバブルアーキテクチャー研究

■玄海諸島7島における地域交流拠点整備のためのフィジビリティ・スタディに関する研究(2020-)

佐賀県唐津市の離島・高島の集落全体のドローンを用いた空撮を行い、それら写真から点群データを作成して3Dモデル化により空間構成の基礎調査を行っている。併せて唐津市立高島小学校旧工作技術室の3D計測による外観の3Dモデル化・実測調査を行い、利活用のためのフィジビリティ・スタディ及び建築改修デザイン提案を行っている。現在は島の資源を活用した持続可能な産業モデル構築を目指すNPO法人の交流拠点をつくるべく、学生とともにワークショップによって古民家改修の整備を行っている。

(佐賀大学地域の再興に資する研究・地域連携プロジェクト)



唐津市・高島／離島研究

■3D計測による風環境調整要素と一体となった集落空間に関する研究(2018-19)

五島列島・福江島の旧・三井楽町にある緩やかな斜面地に並ぶ円形の畑のマルハタ(円畑)と円形の防風林が立ち並ぶ集落を対象に空間構成の基本情報の調査を行い、

さらに写真測量を用いた3Dモデリングによって円畑の集落空間が風環境調整要素(防風林)と一体となることで防風機能が発揮するように配置・組み合わせられていることを明らかにするものである。マルハタの形状や防風林の樹高をドローンによる空撮・SfM(Structure from Motion)ソフトウェアによる点群データの作成と3Dモデル化を行い、実測による現状調査から集落との関係についての基礎的知見を得ている。

(JSPS科研費JP18K13914)



五島列島・福江島／マルハタ研究

■ICT技術を用いたカルロ・スカルパの建築作品における「絵画的手法」に関する研究(2020-22)

建築家カルロ・スカルパの設計した建築作品を対象に、写真測量を用いた3Dモデリングによる空間構成の調査を行い、さらに全周パノラマ画像を用いてスカルパのデザインの根幹的手法である、フレーミングによって鑑賞者に視点を与える「絵画的手法」を明らかにするものである。スカルパの作品の大半は既存の建物の幾度もの改修ゆえに複雑な空間であり、そうした不定形の形状の連続する空間や繊細なディテールの実測や再現が従来の手作業による実測調査では難しかったものを、3Dレーザースキャナーによる高精度の点群データから3Dモデリングを作成し、より正確な空間把握を行う。シークエンシャルなスカルパの建築作品をICT技術を用いて三次元的にいかにかに記述するかを検証し、現代だからこそ可能なICT技術の建築空間研究への適応可能性を模索している。

(JSPS科研費JP20K04888)



カルロ・スカルパ研究

大学卒業以来一貫して大学に身を置いて建築設計を行う立場として心がけているのは、建築設計の実践と研究教育活動の両者がバランスよくフィードバックされながら新しい価値を伴うものでありたい。そのためには常に現役の実践的な建築設計者であると同時に、学生との応答や周縁領域も含めた研究成果の充実が私自身の設計活動へ相乗的に繋がると信じている。

JIA修復塾について

今回は修復塾の活動で経験させていただいた事について書かせていただきます。

■修復塾参加の経緯

本会の末席に加えていただいた数年後、2010年に北九州市で全国大会が開催され、その前年の開催地である京都へ皆で視察に行きました。以降、会員諸先輩方にお誘いをいただき、全然縁の無かった全国大会へ行くのが習慣になりました。全国大会へ行ってみると、地域会の活動と同時に、会員さん達が、委員会活動を活発にされている事に気付きました。当時、九州支部でも田島委員長を中心に修復塾をされていました。恥ずかしながら、歴史建造物への知識、経験はゼロ。興味半分で同じ地域会の先輩である浅田さんと一緒に、お互いの会社で楽しくビデオ講習を受けながら、現地講習にも参加させていただき、修復塾のメンバーとなりました。その後は、毎年開催される修復塾の現地講習に九州各地へ赴き、様々な勉強や経験をさせていただきました。毎回趣旨を変え、講師を変えて開催される講義も面白いのですが、その間や終了後の諸先輩方との一時が楽しく、又色々なアドバイスをいただいたり嬉しかったりで参加させていただいていたのですが……。

■急速熊本へ！

そんな平凡な日々を送っている中、熊本地震がありました。私も支部内外の皆さんと被災地へ駆け付け、応急危険度判定や罹災証明の調査に汗をかかせていただきました。更に修復塾生は、建築士会のヘリテージマネージャーさんと共に、熊本県内にある歴史建造物を調査するという活動がありました。県がリストアップしていた建物の数600超！まずは手分けして現地へ派遣され、一次調査を行いました。その中から更に二次、三次と調査が継続されました。当時、期間限定の様々な公的資金での



松島 逸人（北福岡地域会）

補助があり、私が担当させていただいた中にも残念ながら解体、建替えられた建築物もありました。が、同じく公的補助で後世に残す選択肢も生まれていました。多くの所有者がこの制度を利用して、傷んだ住宅や店舗等を修復されました。たまたま私が最後の三次調査で担当させていただいた熊本市内の住宅も、この制度を利用するという事になり、その後の設計・監理を引き続きさせていただく機会をいただきました。

当時、古民家再生等の他団体でも学んでいましたが、歴史建造物の経験も無く不安でした。経験と見識豊富な前本部理事の柴田さんが県の本事業のまとめ役をされていたので、色々と相談させていただき、知識も知恵も拝借しながら進める事になりました。因みに、「震災前の姿に戻す。」というのが原則で、御施主さんや我々が勝手に好きなアイデアで手を加えるのはNGです。行う場合は行政の審査があり、公費ではなく自費で行うという仕組みになっていました。

■皆さんに助けられて

建物は明治時代初期の庄屋さんのお宅で、主屋と離れ、それに立派な門で構成されていました。築140年とされていましたが、実際は江戸時代後期の建物との事。よくよく伺ってみると、140年前に初めて、現在でも使われ



工事前外観



工事前室内の様子

ている資料の調査と記録が開始されたとの事。つまり当時既に建っていた建物の多くは築140年という事だそうです。確かに最近よくみる古民家改修のお店等も築140年とよく聞きます。

子供の頃から住み慣れた愛着のある我が家が大変痛々しい状態で風雨に晒されているので、まずは詳細の調査を行いました。震源地からも近く、周辺でも地面が波打つ等の被害も出ていたので地盤調査もさせていただきました。周囲は少し高台にある畑で、特に表土が緩い事もわかりました。行政とも相談させていただき、人生2回目の曳家による補強も経験させていただきました。建築面積約80坪の主屋の曳家は結構壮観です。瓦屋根が下され、建具も外されて軽くなった状態での曳家。途中で台風もあり、実は生きた心地はしませんでした。



工事中風景

壁 小舞下地

伝統工法は初めての経験でもあり、御迷惑をおかけできないので、構造は九州でもこの分野で造詣の深い川崎さんに相談し、泊まり込みでの現地調査から支えていただきました。

柱や梁も破損したり、劣化で朽ちていたりです。工事を請け負っていただいた地元の工務店の棟梁をはじめ、多くの職人さん達に一つ一つ丁寧に直してもらい、ようやく全景が見えてきました。今度は壁です。馴染みのあるボード類に仕上げではなく、土壁での復旧です。元の土を一度落としてから竹で小舞下地を編んでいきます。写真では見た事がありましたが、息を飲む程の美しさに見惚れました。土を塗らずに残した方が・・・。とも思いましたが、先程の元の土を再利用して土壁を作っていました。寒い季節で、下途→中途→上途と、左官屋さ

んが何度も何度も塗っては乾かし、塗っては乾かしと丁寧に仕上げていきます。最後に綺麗な漆喰が塗り上り、白と黒のコントラストを目にした際は、大変嬉しかったです。細やかな細工のなされた欄間や建具の数々も、職人さんが全て綺麗に持ち帰って修復してくれました。震災後の健在不足、職人不足等の影響も大きく、足掛け2年の調査と工事でした。隔週で北九州から通わせていただきましたが、お陰様で大赤字になる事もなく無事完成し、御施主さん家族や地元の職人仲間の皆さん、ずっとサポートいただいた行政の皆さんにも喜んでいただきました。

■経験を活かして

私も木の種類や継手、仕口等々、いつものプレカット&金物で固める工事とは全く異なる建築の造り方を体験する事ができました。

色々と学ばせていただいた貴重な経験を支部の皆さんと共有させていただきながら、今後も皆さんと活動を継続し、個々のスキルアップと会の活性化で微力ながら社会貢献を願っています。



完成後室内



上空より俯瞰写真



完成後室内



関係者集合写真

JIAに入会して感じたこと

JIAに入会して3年半、諸先輩方のこれまでの活動を拝見すると実に多くの時間を割いておられ本業との兼ね合いなど、どうされているのだろうかと思いが下がる思いです。最近のご指導を仰ぎながらも、どうにかついていっている状況ですが、これまでJIA活動をする中で私なりに思う鹿児島地域会での重要な活動は「**一般の方々への認知度を上げ、親しみをもっといただく。**」「**学生への支援。**」「**若手が活躍できる環境づくり。**」ではないかと感じております。

「一般の方々への認知度を上げ、親しみをもっといただく。」

鹿児島地域会では一般の方々や学生を対象とした「オープン・レクチャーかごしま」と題して県内外の建築家によるレクチャーを2020年から6回開催いたしました。登壇していただいた建築家のお話は参加者にとって有意義で刺激的な内容でしたが、コロナ禍で厳しい時期でもありWeb配信や広報活動など努力しましたが、参加者は学生中心で一般の方々の参加は少なく、まだまだ工夫を重ねる必要があると感じています。



オープン・レクチャー

しかしなんとといってもレクチャー後の懇親会は鹿児島名物の料理と焼酎でおもてなし、楽しい建築談義に花を咲かせ忘れられない一夜となりますので、機会がありましたらJIA会員皆様の今後にご登壇を是非お願いいたします。

「学生への支援として。」

- ・ 建築展への学生作品の模型やパネル展示。
- ・ 鹿児島大学の設計製図課題への講評。

・ 鹿児島大学、第一工科大学の卒業設計へのJIA鹿児島会賞の授与。

などの活動を行っております。感染予防対策で対面できずデータ審査のみ



JIA鹿児島会賞の審査



宮崎 秀志 （鹿児島地域会）

の場合もありもどかしく、そういったなかでも学生の集大成である作品を真剣に審査しなければとの思いです。

「若手が活躍できる環境づくり。」

松山支部長の支部長漫遊記は若手にとっては刺激的でとても素晴らしい企画だと思います。ズバズバと斬ったり斬られたり本気の討論をする機会は以外と少なく、我々も若い時代にこのような企画に参加できれば大きな刺激を受けたのではないかとすら思います。どの業界でも新参者に対して排他的となるのはよくあることですが、若手はそれを乗り越える事は当然としても建築設計界では優秀で気概のある者が活躍できる場をつくることは学生にも夢を与え、鹿児島の将来の為にも必要な事です。

小規模からでも敷居の低いオープンなコンペやプロポの開催など発注者への働きかけも更に強めていかなければなりません。松山支部長の九州新人賞設立も大賛成です。そのような活動を行う事は若手や学生から見て魅力あるJIAとなるのではないのでしょうか。

鹿児島地域会でも更なる具体的な活動を検討しなければと感じています。

JIAとまちづくり。

私は支部のまちなみレビュー委員として各地域会からのまちなみ事例を拝見し、諸先輩方の熱意を感じながら勉強させていただいております。松島委員長を中心に各地域会よりコンバージョンなどまちづくりに寄与している建物や活動をピックアップし、皆で評論しながらまとめていく活動ですが実に楽しく充実した委員会です。その中で特に印象に残っている資料が長崎の田中さんより紹介いただいた壱岐・勝本浦地区の港町を調査したデザイン・サーヴェイが素晴らしい。まちなみから人々の暮らしや背景そして建築を調査分析しているのですが、調査というよりそこに住み、暮らすレベルまで深掘りしている内容には驚きでした。そんな活動のさなか、たまたま鹿児島のある自治体関係者からまちづくりに関する相談がありました。ひと昔前に個人的に関わっていたまちづくりの流れでした。私個人で動けるレベルでは無いと思いつつ自治体にJIAでの参画ではいかがかとお話をしたところ興味を持っていただきました。早速、支部に相談したところバックアップをしていただけるとの事で少しずつ

ではありますが参画する方向で動き出したところです。まだまだ緒に就いたばかりの話ですが、このようなまちづくり支援にはJIAは設計専門集団として専門性が高く組織力にも柔軟性があり適任だと感じています。今後はこれまでの活動と共に、このようなまちづくり支援にも積極的に参加できればと思います。5年～10年以上の長丁場であることから次世代に引き継ぐような活動が大切です。又、学生や若手に興味をもってもらう為にもまちづくり活動にも参加してもらえれば一石二鳥ではないでしょうか。

私は開聞岳を望む農家で生まれ育ちました。

もっかの夢は雄大な開聞岳を望める小さなアトリエをいつの日かつくる事です。その土地を読み込みそこに思いを馳せる、楽しい建築設計の原点作業です。現在の鹿児島の状況といえば鹿児島市中心部の大型プロジェクトに目に行きがちですが、中心部といえどもやはり小さな地域のかたまりだということをおぼえてはいけないと思います。地方だから都会だからと言っても、まちがあり人々が暮らすことには変わりない。当たり前すぎますが、時々忘れそうになるので夢のアトリエでリフレッシュしたいと妄想しております。



実家から見た開聞岳

最後に個人的な内容で恐縮ですが「音」について。

昔から身近な空間での「音」がとても気になっています。目に見えずなかなか話題に上がる事も少ないのですが、見た目の意匠と同じくらいの配慮が必要です。と言っても特別な事はするわけではなく感覚的にやっているだけです。音環境の良し悪しは耳だけではなく肌でも感じるのやはり空気振動だからでしょう。しかし身近な空間とは言え、「カン」で設計するのも如何なものかならば音響シミュレーションをするわけですが、素材や形状などそもそも論も理解する必要があります。

そこでいつもの工作魂に火がつきスピーカーを作り実

験してみようとなるわけです。まずは箱のデザインから、音響理論も頭に入れながら点、線、面から立体の最小構成の正四面体でいくことにする。音響的には平行面がないので良いはずと思い込み、次は箱の材料選び。木材では面白くないのでかっこいい硝子でいく事にする。硝子は厚くなるほど叩くとキンキンがコツコツと意外と内部損失が高く、適していると思い込む。スピーカーユニットは予算の関係で8cmの小径フルレンジ1発で十分と思い込む。ユニットのパラメーターから計算して箱の容積を決める。低音不足を想定してバスレフタイプとする。さて、肝心の形だが内容積は正四面体と決めているので二等辺三角形の硝子板をツバが出るようにずらして組み立てる。ツバは螺旋状に方向性がでるので、上下向きを変えて合体させる事とした。組み立ては想像以上に困難だった。硝子をシリコンで接着するのだが重すぎて位置が決まらない。結局組み立て用のジグをつくりなんとか組みあげた。

スピーカーは天井を向けた。無指向性型なのだが音は矢のように飛んでくるのでは無く、打ち寄せる波のように広がっては消えるらしいのでこれで良しとした。スピーカーユニットと箱は通常ネジ止めで固定するが、これではスピーカーの振動板以外の音を箱に付帯させ雑味のある音になるらしいのでゲル板を介して天板にのせるだけとした。それだけではユニットが振動で暴れてしまうのでワイヤーで錘をぶら下げ空中固定する事とした。調べると錘は振動板の重量の2000倍の重さでいいらしい。知り合いに頼んで程よい重さの桜島の溶岩を手に入れぶら下げた。完成だ。見たことがない不思議な形だ。アンプからの信号はスピーカーの振動板を震わせる。それは余計な付帯音のない純粋な音のはずだ。桜島の溶岩をアンカーとしているので、出でくる音は桜島の音、大地の音と呼ぶこととした。腰は痛くなったが面白く音の勉強をした。実験は成功で結構よい音が出ていると自画自賛している。構造的にもツバの組付け部によるタガが効いてビクともしない。

事務所に置いてあるが誰も気が付かないので少々寂しい。興味のある方は、是非お越しいただき音と建築談義をいたしましょう。



硝子のスピーカー

私の3つの宝物

我が家の設計室の窓から梅の花が見えます。いつの間に咲いたのか、もう終わり掛けのようで額の辺りのピンクの色が眼立ちます。でも眼を凝らして見ていると枝先の方にはまだ可憐な梅の形をした花もちらほら。

そこへ目白が蜜をすいに。3羽が吸って次の3羽に。又次の3羽が吸ってとこのグループは9羽で1グループのようです。このグループが継続的なものかどうかは分かりませんが実に規則正しく蜜を吸います。自然界には食べ過ぎという言葉はないのでしょうか。シェアが実に上手く行っています。

片や人間。家という物を持ってしまった。最初は江戸時代の庶民宜しくシンプルな暮らしを求めました。しかし物は増えるのです。

あの箱の中には地震の時にしまい込んだグラスが。あの箱にはいつの日か金継しようとしてあるガラクタが。またあの箱の中には〜と。実に限りないものです。しかし私は悟りました。どうせ私の物なんて死んだらゴミなんだから。でもそんなら死ぬまでは身の回りに置いておいてもいいのでは？ 幾つまで生きるか分からないけど、思い出の品と戯れ、思い出の品を愛でる。

今、ウクライナでは難民が着の身着のままの移動を強いられています。あの人達には思い出に浸る時間もなければ思い出を辿る縁もない。我々には今は確実にある、思い出に浸り、辿りましょう。

私の宝物 その1 猫の絵（リトグラフです）

Quartet in the Gardenと言います。猫に4人の楽師が音楽を聞かせている。緑の風の中。序に気持ちよさそうに寝そべったお姉さんも聞いている。それだけの実に平和な絵です。



宝物1 猫の絵



東大森 裕子 (熊本地域会)

私の宝物 その2

山の上でお坊さんが悟りを開いている絵？



宝物2 お坊さんの悟り？

チョット待て〜 悟りを開いているにしては花を持って楽しそうじゃない。楽しくてもいいんです。楽しい悟りもあるものなのです。この絵に出会ったのはカンボジア。（ホテル カンボジアーナ）兎に角ノーテンキなこのお坊さん、一目で気に入ってしまいました。それからが大変。額装の雰

囲気はこれしか無いだろうとそのまま持ち帰る事に。額の裏紙はそのまま折り畳んでサムソナイトへ。ガラスは諦め肝心のフレームは機内持ち込み。そして絵は丸めて私が。一緒に旅してきました。それにしてもカンボジアの子供達の明るかったこと「ポルポト」と言って物陰から飛び出してくるんです。まるで鬼ごっこで「みいつけた！」

私の宝物 その3 リトグラフです。

同じ原面に彩色したものと無彩色のもの。池田満寿夫です。今は二つ一緒に並べてますがそれぞれで見ると一緒に見るのとは全然違う。自分の内面探しと外面探しくらい違う。不思議な絵です



宝物3 リトグラフ

デザインレビュー2022 報告



池浦 順一郎 (福岡地域会)

今回で27回目の開催となった「デザインレビュー」は全国各地の大学、大学院、専門学校、高専などで建築を学ぶ学生達の意欲的作品の講評を通して、現代建築や都市環境を取り巻く諸問題を議論し、デザインの可能性とリアリティについて、広く意見を交換する場を提供する活動です。学生デザインのレベルを高めることはもとより、現代の建築批評や建築・都市デザインに対する刺激となることを目的としています。福岡近郊の大学の有志が学生実行委員会を立ち上げ、JIA九州支部が事務局を担い、支部会員が実行委員会に加わり、学生をサポートするかたちで企画を進めてきました。今回は、新型コロナウイルスの影響により通常開催が危ぶまれましたが、オンライン形式でなく、今回は対面形式で開催したいとの学生実行委員の強い意志もあり、九州産業大学内で開催することができました。ただし、一般参加は無しとし、参加者らにはPCR検査などの義務を課しています。まだまだ、コロナ以前の状況まで戻すことはできないながらも、学生達がクリティークと対面形式で議論を活発に行う様子は、大変有意義な時間だったことに思えます。

1日目は開会式を行い、その後のポスターセッションでは一部のオンライン参加者はタブレットを用いながら、学生達は順に巡ってくるクリティークや司会に対し1分の発表と2分の質疑応答でディスカッションを行うことができました。

2日目は、決勝進出する8名を選抜し、今回はトーナメント方式で最優秀賞を決めることとし、予選トーナメントを8名、決勝トーナメントを4名で競いました。結果、決勝トーナメントに残った4名全てに最優秀賞と優秀賞が与えられました。このトーナメントの様子はLIVE配信も行い、広く視聴できるようにしております。今回は、模型やプレゼンテーションボードを展示することができ、議論も本当に活発に展開され、予定していたスケジュールを大幅に延長しながらも、会場がとても熱を帯びたものとなりました。本番終了後のクリティークを交えた座談会も帰省の飛行機の時間ギリギリまで行われ、学生たちにとっては貴重で建築家の職能を身近に味わえた時間だったと思います。

また、JIA九州支部では、建築教育支援活動の一環として、高校生を対象に『デザインレビュー2022』への見学参加者を「高校生レポーター」として募集しました。各地域会から普通科・工業科を問わず、これから進路を検討していく高校生に対して、全国各地の建築を学ぶ学生たちの取り組みや作品に触れ、建築の楽しさや魅力を感じてもらおう事業です。今年度は現地見学を行うことができました。

次回のデザインレビューも学生達にとって、建築を考え、そして楽しむ場所となるように支援を続けていきたいと思えます。

主催：学生デザインレビュー2022学生実行委員会

共催：日本建築家協会九州支部

特別協賛：株式会社総合資格

学生実行委員長：中山亘（九州大学3年）

【学生実行委員】：九州圏内の学生

【実行委員】：池浦順一郎（DABURA.i）、川津悠嗣（かわつひろし建築工房）、谷口遵（建築デザイン工房）、豊田宏二（トヨダデザイン）

【場所】：九州産業大学（Youtube LIVE配信）

【クリティーク】：石川 初（慶應義塾大学環境情報学部教授）

大西 麻貴（一級建築士事務所 大西麻貴+百田有希/o+h）

佐藤 淳（東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授）

津川 恵理（ALTEMY代表、東京藝術大学教育研究助手、東京理科大学非常勤講師）

中山 英之（株式会社中山英之建築設計事務所）

【司会】：末光 弘和（九州大学大学院准教授, SUEP. 主宰）

■スケジュール

2月13日(日)予選審査・応募者数394名、

3月12日(土)公開審査出展66名(うちオンライン参加7名)、ポスターセッション

3月13日(日)決勝選抜の8選を選定し、予選トーナメント・決勝トーナメントを行い、最優秀1作、優秀3作を決定した。
また、クリティーク賞を各1名ずつ選出(合計5名)、同時にJIA全国学生卒業設計コンクールに推薦する予定者6名も選出された。

参加作品：予選登録者数479名、予選提出者394名、本選通過者70名、本選審査出展66名(うちオンライン参加7名)

■学生設計選奨

○最優秀賞：渡邊雪乃(九州大学)「隠れ里のイマをつなぐー限界集落と支え合う児童養護施設ー」

○優秀賞：小原可南子(九州大学)「ECHOING NATURE-珊瑚を用いたバイオミクリーによる環境共生建築-」

：新美志織(工学院大学)「都市を停める-工事仮設物を用いて更新し続ける駐車場-」

：飯田夢(法政大学)「私小説『家』-オノマトペを設計手法とした空間化の提案-」

■クリティーク賞

○石川初賞：田中由愛(鹿児島大学)「はまださんぽ-霧島ヶ丘公園と浜田海水浴場を繋ぐ新たなコミュニケーションの場の提案-」

○大西麻貴賞：後藤夕鯉(広島工業大学)「伏見町計画-街の要素抽出による新たな街の活性化-」

○佐藤淳賞：林深音(日本大学)「泪庇-青春東京を取り戻すネオ・アジールの構築-」

○津川恵理賞：葛谷寧鵬(滋賀県立大学)「「関」「襷」そして「ユートピア」」

○中山英之賞：饗庭優樹(立命館大学)「水トノ共生作法-針江集落のカバタによる水との暮らし・集落の生業拠点の再建-」

■JIA九州選奨

○小原可南子(九州大学)「ECHOING NATURE-珊瑚を用いたバイオミクリーによる環境共生建築-」

○高田圭悟(福岡大学)「500年後、干拓地に湖を残すためにできること - 土木遺産を活用した水と生物の循環 -」

○東英和(九州工業大学)「Slopescape -新阿蘇大橋における自然共生型法面の提案-」

○渡邊雪乃(九州大学)「隠れ里のイマをつなぐー限界集落と支え合う児童養護施設ー」

○柴田智帆(九州産業大学)「個性のあいだ -違うものを、違ったまま共存させる手法-」

○三舛正順(九州大学)「小国の操杉術」

■記録誌出版：学生実行委員会がデータをまとめた上、株式会社総合資格にて出版、販売を担当して頂く予定。



ポスターセッションの様子



決勝トーナメントの様子



終了後の集合写真の撮影の様子

デザインレビュー2022 高校生レポーター活動報告



重田 信爾 (大分地域会)

今年度も『デザインレビュー2022』の最終日(3月13日(日))に、「デザインレビュー2022 高校生レポーター」事業を行いました。本事業は、高校生に『デザインレビュー2022』を見学・視聴してもらい、全国各地の大学などで建築を学ぶ学生たちとその作品に触れてもらうことで、建築の楽しさや魅力を感じてもらうことを目的に、九州支部の建築教育支援活動の一環として2020年から取り組んでいる事業です。参加する高校生からはレポートを提出してもらい、支部からは会場までの交通費を補助しています。

今年は『デザインレビュー2022』が対面開催(オンライン併用)となり、高校生レポーターも対面・オンラインの併用開催として募集を行いました。コロナの状況などで、各地域共通で昨年以上に反応が鈍かったのですが、最終的に11名の高校生から応募がありました。北福岡地域会から1名、福岡地域会から3名の4名が会場での対面参加、宮崎地域会から7名がオンライン視聴参加で開催しました。

対面参加の皆さんは、会場ですぐコロナ検査キットで検査を行い、陰性確認後、作品模型の見学へ。模型の迫力や完成度の高さに感心していたとのこと。その後、決勝戦前半の様子を構内別会場にてオンラインにて視聴しました。途中、トラブルによりオンライン視聴困難となったものの、決勝戦後半は決勝戦会場にて見学させて頂きました。発表する学生のプレゼンや、クリティーク陣のコメントを食い入るように見学していました。

<対面参加 開催状況>高校生：戸畑高等学校(1名)、有明工業高等専門学校(3名) 会員：塩釜直人、福田哲也、他



北福岡地域会模型見学



福岡地域会模型見学



福岡地域会模型見学



福岡地域会参加者



北福岡・福岡地域会オンライン視聴



決勝戦会場

オンラインでは、宮崎地域会から宮崎工業高等学校から7名(うち2年生の5名は昨年も参加)が視聴参加されました。映像を視聴しながらポイントで会員が解説をはさみ、また審査の間には学生の意見を聞いて行われました。作品や学生のプレゼンテーションに、非常に興味を持たれたようでした。途中のオンライントラブルで視聴が出来なくなっからは、既にアップされていた動画を再視聴の後、会員より、将来の進路など建築・設計業界に関する話をしていただき終了いたしました。

<宮崎地域会> 高校生：宮崎工業高校（7名） 会 員：久寿米木和夫、越山明典

今回は、本事業初の対面での開催ができましたが、参加者の感想からも、対面ならではの現地で体験する雰囲気や迫力が非常によかったと思います。また、オンラインの開催でも、プレゼンテーションの重要さや作品への興味、さらには、建築・設計についての興味を深めることへつなげて頂けたと感じています。アクシデントもありましたが、非常に充実した内容となり、参加した高校生には何かを感じて頂けたのではないかと感じており、九州支部が高校生に対しての建築・設計についての啓発活動の一翼を担えたのではと感じています。

最後になりましたが、デザインレビュー2022開催にご尽力頂いたデザインレビュー2022実行委員（学生・社会人）の皆様、ご協力を頂いた会員の皆様に、感謝すると共に御礼申し上げます。



宮崎地域会オンライン視聴

<デザインレビュー2022高校生レポーター各地域会担当> 塩釜直人（北福岡）、福田哲也（福岡）、清水耕一郎（佐賀）、松本隆之（長崎）、林田直樹（熊本）、重田信爾（大分）、越山明典（宮崎）、水本浩二（鹿児島）、川津悠嗣（九州支部）

デザインレビュー2022を振り返る



九州大学 中山 亘（DR2022実行委員長）

今回は「創成期」をテーマとし、九州産業大学にて3/12(土)-3/13(日)の二日間で開催いたしました。予選応募作品数は過去応募数を大幅に超える390作品となり、DesignReviewが全国的な一大設計展として今なお成長を続けていることを実感しました。当日は九州を始めとして、全国より予選通過のうち66作品が集結し、プレゼンボードや模型が展示されました。1日目は、クリティークと出展者との対話形式のポスターセッション、2日目には選出8作品の決勝トーナメントと公開講評・審査、表彰が行われました。特に、今年から復活したトーナメント方式の審査では二つの作品に焦点を絞って審査することで、他の設計展では見られないような新しい視点から、熱のこもった議論が繰り上げられました。「議論」に重きを置いたDesignReviewらしさが色濃く現れた大会になったと思います。

去年・一昨年とDesignReviewはオンライン開催だったため、今年の実行委員の中には誰も対面開催での運営の経験者がいなかった上に、オミクロン株の拡大など、直前まで新型コロナウイルスへの対応に苦しまされ、大会準備期間は課題が尽きることがありませんでした。蔓延防止等重点措置の影響により、本番数日前まで対面開催ができるかどうかかわからないような厳しい状況でしたが、様々な方々のご協力により、最後には3年ぶりの対面開催を実現することが叶いました。大会中はあちこちで出展者の方や審査員の方々が会話に花を咲かせ、会場は非常に活気に満ち溢れておりました。なお、人数制限の関係上一般入場は行うことができませんでしたが、会場で繰り上げられた熱い議論の様子はYouTube生配信で全国の方々にお届けいたしました。2年間のオンライン開催を経て、歴史あるDesignReviewの再スタートとなる意義ある大会になったと感じております。今後ともDesignReviewをよろしくお願ひ致します。

大会結果や本選審査の様子は公式ホームページ・Youtubeにてご確認ください。

公式HP：<https://designreview2022.com>

公式Youtube：

<https://youtu.be/JddFj2Cyexo>



全体集合写真



平松 晃一 (長崎地域会)

この度JIA長崎地域会に入会しました平松晃一と申します。

平成8年より長崎市の株式会社建友社設計にて長崎県内を主として建築設計に従事し、令和2年6月に代表取締役社長に就任しました。社として建築を通しての社会貢献を掲げており、建築家としてのさらなる自己研鑽と社会貢献を目指し建築家の団体であるJIAに入会したところです。実のところ30代に短い間でしたがJIA長崎地域会に所属していた時期があります。当時同会の諸先輩方と建築関連の熱心な活動にご一緒させていただき、大変有意義な会であると感じていましたが、日常業務が忙しく思うような活動ができず退会となったところでした。リベンジというところもありながら有意義な活動ができればと思っています。



(c)Fujinari Miyazaki

川棚町庁舎外観

JIA長崎地域会も世代交代が進んできていますが、若手が増えてほしいといった感はありません。微力ながら若手を巻き込んだ会の活性化に貢献できればとも考えています。20代に九州建築塾 (in芦北) にも参加したことがあり、当時いい刺激になったことを記憶しています。JIAの活動の中で感じるものがあつたものの一つにJIA25年賞があります。竣工後25年以上経ってからの表彰ということがJIAだと感じました。進化の過程で刹那的なことの価値も大切ですが、人も建築も100年時代ともいわれ多様化する社会の中で時々建築の存在価値を模索し、未来につながる建築のあり方をJIA活動から感じとりたいと期待しています。仲間の皆様とは仕事ではライバルともなりますが、活動を創造しながら一緒に建築を楽しみたい。また長崎の平和地区に会社が所在するものとして平和を胸に、世界の未来のためにJIAとともにSDGsを推進していきたい。よろしくお願いします。



宮崎 響平 (鹿児島地域会) ジュニア会員

この度JIAに入会しました宮崎と申します。大学卒業後、鹿児島県にある事務所に入社し、住宅、病院、ホテルなど様々な建築の設計を担当しております。

JIAに入会したきっかけは、今年の6月に鹿児島で開催された支部長漫遊記の企画に参加したことです。事務所に入社してから3年間で担当した物件の中で考えたことに対して松山支部長はじめ、鹿児島にいる若手建築家の方々からコメントを頂けたのは、励みも反省も含めてモチベーションにつながり、作ったものをプロの目で見ってもらうことの重要性を身に染みて感じました。鹿児島にいと緊張感をなくそうと思えばいくらでもなくせる環境ですが、JIAに入会して知り合った方々に見てもらうことを意識して設計し、緊張感のある設計環境を作れればと考えています。

実務を初めて4年目ですが、コンセプト云々の前に考えたものを実現することの難しさをひしひしと感じています。設計の能力や素材に対する理解、コストの感覚もありますが、設計に入る前段階の条件を整えることも重要であると、これまでの失敗の中で学びました。



Photo アイオイ・プロフォート

カナフアーケード

務めている事務所ではかなりの部分の決定権が担当者に与えられていますので、(失敗しないように努力するのは前提として)きちんと失敗できる学びの多い環境です。

鹿児島では全くの同世代という人にはほとんど知り合えていませんので、学生時代に比べて一人で考えることが増えています。この環境に最初は物足りなさを感じていましたが、今は自分に向いているように感じています。時々、遠回りをしている気分になったりもしますが、生まれ育った鹿児島できちんと自分の興味のあることを掘り下げて、何年後かに実りがある有意義な遠回りをしていこうと思っています。

報告事項			
③ 本部委員会・特別委員会活動報告			
1	総務委員会	下山道男	
	12/6：第6回 入退会審査、正会員の勤務先変更、会員規程の見直し検討、正会員の再入会に関する取扱い、苦情相談WG、知財WG、カーボン・ニュートラル特別委員会、UIA国際マニフェスト・リレー特別委員会、教育委員会の活動見直しについて 1/20：第7回 入退会審査、委員会構成、準会員に関する会員種別の見直し等、役員候補者選挙規程等、メルアド管理検討について		
2	広報委員会	委員長：川津悠嗣 副委員長：有吉兼次	添付資料 1
	12/7 本部広報委員会web 12/16 広報編集会議 12/28 九州支部ブルテン2021/12発行 1/19 広報編集会議		
3	教育委員会	田中康裕	
	1月25日開催 2021リフレッシュセミナーの中止を決定。他、JIAスクール等、委員会ミッションについて協議		
4	表彰委員会	鯉坂徹	
	報告事項なし		
5	建築家資格制度実務委員会	委員長：市川清貴 副委員長：佐々木寿久 資格制度委員：下山道男	
	12/13職能・資格制度/建築家資格制度実務合同委員会、1/17職能・資格制度/建築家資格制度実務委員会、11/1日より2021年度新規登録・更新・再登録受付開始 1/24職能・資格制度委員会		
6	財務委員会	作田耕一朗	
	報告事項なし		
7	業務委員会	前田哲	
	1. 建築確認等のオンライン利用率引上げ対応について ● 建築確認等のオンライン利用率引上げの基本計画 第三者委員会（第1回）議事【資料1】 2. 建築士事務所の開設者とその業務に関して請求することのできる報酬の基準について ● 告示報酬基準への各団体からの追加意見【資料2-①】 ● （平成31年国土交通省告示第98号）検討委員会 議事 【資料2-②】 事務局：国土交通省／委員長：大森弁護士 ● 今後の検討委員会の進め方【資料2-③】 ● 業務報酬基準（告示98号）に関する改正方針（案）とアンケート調査における対応について【資料2-④】 ● 単一類型、複合類型の定義【資料2-⑤】 ● 業務量実態調査票（案）（新築：戸建住宅以外の建築物）【資料2-⑥】 ● 業務量実態調査票（案）（新築：戸建住宅）【資料2-⑦】 ● 業務量実態調査票（案）（改修）【資料2-⑧】 ● プレ調査の実施方針（案）について【資料2-⑨】 ● 調査対象とする建築士事務所のリストアップについて【資料2-⑩】【資料3】 （以下、上記資料格納URL） https://nse-my.sharepoint.com/:f:/g/personal/maeda-s_nihonsekkei_co_jp/EgxB0dEXBy1Dk0xXwcC3uT0Bef2emJPpIzEJhL9W1_Ghw?e=MiyYnLX		
8	全国学生卒業設計コンクール実行委員会	田中康裕	
	1月19日委員会開催。各支部、地域会のコンクール状況確認と今年の開催方法について協議		
報告事項			
④ 全国会議活動報告			
1	JIA災害対策会議	原田展幸	
	報告なし ※1/22に大分・宮崎で発生した地震（最大深度5強）に関して、JIA災害対策本部は設置されませんでした。 ※JIAの災害時支援活動規定では、最大深度6弱以上の地震が発生した場合に災害対策本部が設置されます。		
2	JIA保存再生会議	田島正陽・柴田真秀	
	12月8日web会議 保存再生会議のSDGs、カーボンニュートラルへのとりくみについて		

3	文化財修復塾	鯨坂徹		
	1/12：第7回 各支部の活動報告、修復塾とHMとの相互認証について、サロン開催（1/29）オーガナイザー（田島）、座学講座ビデオとテキスト作成について			
4	文化財ドクター	柴田真秀		
	報告事項なし			
5-1	JIA建築相談会議	有吉兼次		
	報告事項なし			
5-2	JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次		
	11月から1月は下記の相談対応を行いました。 ○12月18日 佐賀 トラブル 新築住宅に住み始め、不具合がたくさんありました。色々、欠陥があったりそのたびに業者に直してもらってるが、第三者の住宅診断など受けた方が良いのではと考えている。第三者の診断はどのような所に頼めるのか、第三者の意見を伺いたいとの事。（担当 白濱） ○1月18日 福岡 一般 築90年の町家で建て替えかりフォームを検討している。町家で隣とくっついているのでリフォームが良いと考えている。どのように進めていったらよいか第三者の意見を伺いたい。（川津・有吉）			
6	JIA環境会議	福田展淳		
	11月17日 JIA環境会議・月例会議 欠席 1月19日 JIA環境会議・月例会議 Zoom参加 東京海上日動、葛西臨海水族園建て替え問題			
7	JIAまちづくり会議	松島逸人		
	・1月14日(金)ZOOM会議 全国のまっつくりの情報交換、及び萌芽シート作成について JIAポータルからアーカイブ化 東京海上日動の建て替えについて			
8	JIA25年賞特別委員会	下山道男		
	北福岡からの作品が認定されました。発表はまだのようですので決定報告のみです			
9	国際委員会	佐々木寿久		
	<ul style="list-style-type: none"> ・12/10 国際委員会 ・12/17 第2回ウェブセミナー「中国におけるビッグネスデザイン」 ・1/14 国際委員会 ・1/21 第3回ウェブセミナー「建築とビジネスの垣根を取り払う/教育と不動産開発の融合『U Share』」 			
10	オンライン_リモート特別委員会	柴田真秀・村上明生		
	11月29日、12月9日、12月24日web会議、「エキスパートインデクス」のアンケート宜しくお願ひします。			
11	デザインレビュー	佐々木寿久		
	JIA九州支部事業委員会の報告項に移行しました			
12	住宅等連携会議	佐々木寿久		
	<ul style="list-style-type: none"> ・12/9 住宅連携会議 ・1/5 住宅連携会議 ・1/27 「高齢者が居住する住宅の設計に係る指針の見直し等に関する検討会」に出席 (国土交通省住宅局安心居住推進課 主催) 			
13	CPD評議会委員会	田中康裕		
	報告事項なし			

支部事業委員会報告

教育支援委員会

1	建築塾WG	下山道男		
	報告事項なし			
2	デザインレビューWG	池浦順一郎		
	12月27日 実行委員会会議 / 1月15日 実行委員会会議 / 1月29日 記録誌作成協議			
3	DR高校生レポーターWG	重田 信爾		
	10/9 メール協議送信 (10/15受信締切り) 予定			
4	建築家派遣 (エコルサポート)	福田 哲也		
	特に活動はありません			

活動支援委員会

1	収益事業WG	川津 悠嗣		
	報告事項なし			
2	JIAサポートWG	川津 悠嗣		
	報告事項なし			
3	木活 (モクカツ) WG	松島 逸人		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11/26 九経連モクビル研究会 代表者会議(ZOOM開催) ・ 12/24 九経連モクビル研究会開催 ・ 1/ 6 九経連モクビル研究会 代表者会議(ZOOM開催) 			
4	25年賞WG	下山 道男		
	・北福岡からの作品が認定されました。発表はまだのようですので決定報告			
5	九州建築新人賞WG	松山 将勝		
	・2023年度の創設をめざしてWGで検討状況			
6	ケンバイWG	田中康裕		
	1月28日 勉強会を開催 (WEB)しました			

協力会「JIA協力会オンラインセミナー」

毎週金曜日のお昼12：30から20分間、ZOOM配信でお送りする、多ジャンルの建築系セミナーです。正会員はもとより、スタッフの皆さんの知識向上に大いに役立つ企画です。何より毎週同じ時間に、同じチャンネルで行われるセミナーですので、自分に癖付けして視聴するだけで、1年で50ものジャンルの知識が勝手に手に入る都合のいい企画です。

12月は三菱電機住環境システムズ(22名参加)の配信を行いました。2022年も引き続きご登壇協力会様を募集しています。詳しくは福岡地域会までご連絡ください。

ZOOMミーティングID: 777 702 7081 パスコード: jia
<https://zoom.us/j/7777027081?pwd=Mnh3THV3RkFldjkydTdVRWlBenBCUT09>



(担当：村上明生)

建築相談

11月から1月は下記の相談対応を行いました。
 ○1月18日 福岡 築90年の町家で建て替えリフォームを検討している。町家で隣とくっついているのでリフォームが良いと考えている。どのように進めていったらよいか第三者の意見を伺いたい。(川津・有吉) (担当：有吉兼次)

建築家資格制度実務委員会

- 12/13職能・資格制度/建築家資格制度実務委員会合同会議
- 1/17職能・資格制度/建築家資格制度実務委員会合同会議
- 11/1より新規登録・更新・再登録申請受付中、1/31締切
- 2/10支部実務委員会開催予定 (担当：市川清貴)

住宅部会

- デザインレビュー
- 12月27日 実行委員会会議 (オンライン)
- 1月15日 実行委員会会議 (JIA九州支部事務局にて)
- (担当：池浦順一郎)

福岡地域会役員会 (第6回)

- 日時：2021年12月11日土曜日16：30-18：00
- 場所：八仙閣 会議室
- 参加人数：14名
- 第5回役員会議事録確認
- 審議事項
入退会について 資料に記載 事前にメールにて審議済
- 協議事項 1.選挙ついて 2.その他
- 報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告 4. 企画運営室報告

2021JIA福岡地域会忘年会

2021年12月11日、博多にある八仙閣にて、福岡地域会忘年会が協力会合わせて、59名で行われました。ちょうどコロナ第5波が収まった中で、久しぶりに楽しい時間でした。今回は、前年から、支部長交代や地域会長の交代など、正式に行われていなかったのが、改めて、川津前支部長、佐々木前地域会長への感謝と、松山新支部長、福田新地域会長のお披露目が行われました。西井協力会会長が計画されたイリュージョンも好評で盛り上がった、忘年会でした。2022年は、コロナが収まり、また、楽しい忘年会が開催されることを期待します。(担当：田中康裕)



第6回福岡地域会役員会の様子



福岡地域会忘年会



忘年会での新入会員自己紹介

■2021年度 第8回例会

日時 2021年12月21日（火）18:30～19:45
 場所 J:COMホルトホール大分408
 出席者 12名
 JIA会員 出席12名、委任状6名、欠席1名（18/19）
 協力会員19名、一般6名
 議事録作成者 一宮嘉宏
 議事録署名人 足立心也

◆内容

1.確認事項 高橋幹事
 出席者人数の確認を行った。
 会員数19名の内、出席者総数18名（委任状による出席者数6名含む）、欠席者1名により、例会が成立する。

2.会長挨拶 重田会長

3.報告事項 重田会長
 ○支部関係

①役員会の報告 重田会長
 地域会規則とりまとめ中。1月例会にて承認議題提出する予定で進んでいます。

○地域会関連 重田会長

①令和3年度木の匠育成事業について
 令和3年12月3日に全講座終了し、今年度11名の木造マイスターが認定されました。

②新規協力会員紹介 重田会長
 (株)エフワンエヌ 岡永様より自己紹介をしていただきました。

4.その他

・会長及び役員継続の件 重田会長
 来任期満了に伴い、役員再選について会員の意見を伺いました。2022年度通常総会において再選議題提出予定。

・+A活動補助費 返還の件 足立会員
 コロナ禍において、活動ができない状況なので今年度において補助費は辞退する意向。来年度については計上をお願いしたい。

・インテリア設計士協会 高橋幹事
 家具コンペ審査協力報告の件
 JIA賞を新たに制定し、今回コンペ審査を行いました。

・令和3年度 エコ住宅普及促進講演会について 三浦会員
 令和4年2月14日アイネス2階大会議室（大分市）で行われる、講演会の案内をしていただきました。



5.例会企画

松田会員

・新規協力会員紹介 株式会社コンクレッタス 池永様
 会社案内、取扱い商品の紹介・説明をしていただきました。



・新規協力会員紹介 ソイテックスジャパン株式会社 後藤様
 会社案内、取扱い商品の紹介・説明をしていただきました。



・新規協力会員紹介 株式会社エフワンエヌ 岡永様
 会社案内、取扱い商品の紹介・説明をしていただきました。



6. 閉会

竹宮副会長

竹宮副会長より閉会の辞がありました。

■次回2021年度 第9回例会

日時：2022年1月18日（火）19:15

場所：未定（後日連絡）

■ 2021年12月役員会

- 日時 2021年12月21日（火） 19：00～
- 場所 ロフト
- 出席 8名

□対面会議で役員会を開催。

1. JIA支部活動報告
2. 合同例会について
3. JIA鹿児島会賞について
4. オープンレクチャーカゴシマについて
5. その他



役員会開催状況

■ 2022年1月合同例会

- 日時 2022年1月25日（火） 18：00～
- 場所 ホテルマイステイズ（鹿児島市山之口町2-7）
※延期（関係者に1/13通知）



役員会開催状況

住宅部会

デザインレビュー

2022/1/29 総合資格会議

2022/2/3 実行委員会議

2022/2/15 実行委員会議

2022/2/25 実行委員会議

(担当：池浦順一郎)

建築相談

2月は下記の相談対応を行いました。

○2月15日 福岡 一般（市役所）1件目

戸建て平屋が狭くなり床面積を拡大する、2階建てにするなどリフォームを考えている。計画前にメリット、デメリット等、第三者の意見を伺いたい。2件目 新築戸建ての住宅を建てるにあたり、ハウスメーカー1社よりプランをもらっている。それに対して第三者にアドバイスを受けたい。（加藤・西村）

福岡○2月24日 福岡 トラブル リフォーム会社にシロアリ駆除の依頼をしました。施工会社がどんどん話を進めてしまい、内容の説明も十分でなく、終了してしまいました。化学物質のことがとても心配なのですが、こちらの話をよく聞いてもらえません。今後、住み続ける為の対策を第三者に伺いたい。また、2階のリフォームも頼んでいます提案書が適切であるのか、見ていただきたい。（加藤・有吉）（担当：有吉兼次）

福岡地域会役員会（第7回）

■日時：2021年1月29日土曜日18：00-19：30

■場所：WEB

■参加人数：15名

第6回役員会議事録確認

■審議事項

2022年度予算について

■協議事項 1.選挙について 2. DR2022について 3. その他

■報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告

4. 企画運営室報告



2月例会「潜在」「多拠点で生まれる事」

講師 STUDIO MOUN(古城龍児 小畑俊洋)

講師 STUDIO MOVE (中尾彰宏 斎藤慶和)

モデレーター：松山将勝（株式会社松山建築設計室）

■日時：2月24日木曜日18時30分～21時30分

■ZOOM参加者 70名



(担当：智原聖治)

建築家資格・CPD

2/10九州支部建築家資格制度実務委員会参加

(担当：市川清貴)

行政連絡委員会

「福岡県気候風土適応住宅の運用基準検討会議」

日時：令和4年2月17日9：30～12：00

場所：ZOOM会議

気候風土適応住宅福岡県版チェックシート（案）内容を検討し、4月運用開始を目指して、意見交換を県内各行政庁と参加7団体で行い、修正案を3月の会議で最終確認する。今回のチェックシート（案）は2025年に300㎡以下の住宅にも義務化になる「省エネ法」にむけて、日本従来の伝統技法での建築を守るためのチェックシート（案）であり、このシートを今年4月より運用開始する。しかしながら、現状シートでは福岡県の美しいまちづくり賞でも評価されているような近現代の大きな開口部を持った伸びやかな建築等が、今後建築不可になってしまう。この建築文化の後退を危惧し、JIA九州支部から、4月以降の継続協議を改めてお願いし、受諾された。（担当：福田哲也）

2月例会「潜在」「多拠点で生まれる事」

講師 STUDIO MOUN(古城龍児 小畑俊洋)

講師 STUDIO MOVE (中尾彰宏 齋藤慶和)

モデレーター：松山将勝(株式会社松山建築設計室)

■日時：2月24日木曜日18時30分～21時30分

■ZOOM参加者 70名

登壇者は若手建築家の中でもユニットで活動をしている2組で、1組目は「STUDIO MOUN」の古城龍児氏と小畑俊洋氏。2組目は「STUDIO MOVE Co.,Ltd.」の中尾彰宏氏と齋藤慶和氏。

まず最初にSTUDIO MOUNから発表をしてもらった。パートナーの古城氏と小畑氏は「株式会社CASE(福岡)」で同年代スタッフとして共に働き、STUDIO MOUNを立ち上げて3年目となる。自分たちの活動を「建築」と「LIFE」という2つの軸で語ってもらった。

「建築」については、「潜在」という言葉を使い、それを新たな価値と呼び起こすものとして定義し、自身の作品について語ってもらった。

小畑氏の両親の家である「雲仙の住宅」では、敷地の情報を注意深く読み取り、分析し、それらをエレメントとして抽出し、建築化する手法をとっている。「屋根」や「窓」といった建築的要素を用い、気候風土や既存母屋との関係をうまく解決し、今まで気がつかなかった新たな暮らしの風景となるよう計画している。店舗改修の「Matsuyama Pann」では、工事費180万円をいった超ローコストの条件のもと、様々なアイデアにより作品として昇華させている。床壁天井をつくとそれだけでコストが足りなくなることから、「少ない手数」により空間化することに頭を切り替え、大川の家具製作によってでる廃材や布(キャンパス)といった非建材を利用することに着目した。通常は見向きもされないモノ達に新たな価値を生み出している。「LIFE」については、彼らが実践している様々な活動で、食を通したイベントやオリジナルプロダクト販売、また放置竹林へのブランディング化などそこでは社会とのつながりを意識したものであり、生活を切り売りするのではなく、生活そのものに新たな価値を見いだすことに他ならない。

この「建築」と「LIFE」が循環し、STUDIO MOUNとして建築家の領域を飛び越えた新しいスタイルがそこにあった。続いて

「STUDIO MOVE Co.,Ltd.」の2人は建築家谷尻誠と吉田愛が主宰する「SUPPOSE DESIGN OFFICE」の同僚であり、株式会社スタジオモブを共同経営して7年目のユニットである。テーマを「分解」～多拠点化で生まれる事～とし、様々な取り組みを語ってもらった。

まずは各々の生い立ちや性格の違い、共通点等を話し、仕事の進め方や他のメンバーとの関わり方などを説明した。仕事場を固定せず、福岡と広島に拠点を置き、LINEでの打合せを基本としながら、必要に応じて顔を合わせるといった仕事の進め方は、一見すると非効率で意思疎通がうまくいかないような気がするが、彼らはお互いの性格の違いによって生まれる案の飛躍や勘違いによる別の視点への切り替えなど多拠点でいることで相乗効果を生む

仕事を進める過程で「企画」「設計」「編集」という3つの流れを掲げ、建築以外の分野の横断を積極的に行っている。

「企画」は1日レストランやエキシビジョンストアなどのイベントを自ら打ち立て、日常での人とのつながりや場づくりを通してそこで出会う多様な人材や機会をつくっている。「設計」では「要素の分解」といった言語を使い、事例として「南阿蘇の別荘」を挙げた。目の前に広がる阿蘇五岳や自然との関係性を軸線や南中高度等により切り分け空間化し、自然に溶け込む建築をつくっている。「ドライブスルー査定 ガリバー高松中央通り店」では非接触型店舗としての建築の在り方を模索し、看板と建築を等価として扱うことで看板としての視認性とシンボル性を確保しながらもそれらによって空間化された場所を設計し、アートのような建築のような看板による新しい形式を生み出している。

「YELLOW BASE COFFEE(長崎県対馬)」では現場を彼らの活動は異業種とのコラボレーションや建築の枠を超えた職能など新たな建築家像を示しているように思えた。訪れた際に対馬石の存在を知り、地域との深い関係性があることを計画に取り込み、この地域の拠点となるような店づくりを行っている。ここでは、企画の段階から参加し、ロゴデザインやブライスカード、名刺まで建築と一貫して提案し、対馬を表現したブランディングまで行っている。「編集」では、「+MOVE」という部門をつくり、出版や映像等のメディアによる情報発信を行っている。企画の段階から情報をSNSにアップしたり、竣工後の施主インタビューや使われ方等を動画撮影するなど、ただ設計して終わりではない関わり方をしている。彼らの活動は異業種とのコラボレーションや建築の枠を超えた職能など新たな建築家像を示しているように思えた。最後に、両ユニットとも建築に対する姿勢に共通点もあり、しかし、つくられた作品にも独自性がある。最近、30代半ばの建築家全般に思うことだが、彼らは建築というカテゴリーから敢えてズレながら他ジャンルとの共存を図り、これから社会的に必要とされる建築家像を示しているように思える。いま、多様性が求められる社会において、建築家に求められるものも変化してきていると思う。今回の彼らの姿にその一つがあるのではないだろうか。(智原聖治)



住宅部会

デザインレビュー

3月5日 実行委員会会議

3月9日 実行委員会会議

3月12日 本番1日目

3月13日 本番2日目

(担当：池浦順一郎)

建築相談

3月10日は相談員相互の事例の検証、相談回答の統一化を目的とした建築相談定例会を事務局にて行いました。相談会定例会には長年相談員を務められている経験豊富な会員が参加されるため、若手相談員は相談対応などの助言をいただいで今後の相談活動に活かしていきたいと思います。

(3月相談会定例会参加者：加藤・井上・高司・武本・川津・西村・豊田・有吉 計8名) (担当：有吉兼次)



福岡地域会役員会 (第8回)

■日時：2022年3月5日土曜日18：00-19：30

■場所：WEB

■参加人数：15名

第7回役員会議事録確認

■審議事項

建築相談員交通費について

■協議事項

1. 福岡地域会役員選挙について
2. 2021年度決算について
3. 2022年度収支計算書、運営方針、事業計画、執行部、支部幹事について
4. 福岡県気候風土適応住宅の運用基準検討委員会について
5. デザインレビュー-2022、DR高校生レポーターについて

- 報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告
4. 企画運営室報告

建築セミナー2021

日時：1月15日 土曜日 13:00～18:00

場所：宮崎市民プラザ4Fギャラリー

参加人数：当日参加45名 講師4名 WEB参加13名

【セミナー内容】

- ・2019,2020年度JIA新人賞受賞者による講演会
- ・宮崎県設計4団体会員及び賛助会員のパネル展示

【スケジュール】

14:00 開場

15:00-18:00 講演会

18:00-18:30 質疑応答・閉会



デザインレビュー 高校生レポーター

日時：3月13日 日曜日 13:00～16:00

場所：宮崎工業高等学校 オンラインにて

参加人数 高校生：7名 JIA会員：2名



JIA鹿児島地域会賞

鹿児島地域会では、県内の大学の卒業設計を審査し、優秀な作品にJIA鹿児島会賞を授与する活動を行っています。

今年度は2月16日に鹿児島大学、3月9日に第一工科大学と2校の卒業設計作品に対して審査を行いました。

時節柄、鹿児島大学では実物模型審査及びシートはデータ閲覧、第一工科大学は大学側で選定された9作品のみとなり、両大学共に直接のプレゼンやヒアリングが出来ない中での審査となりました。

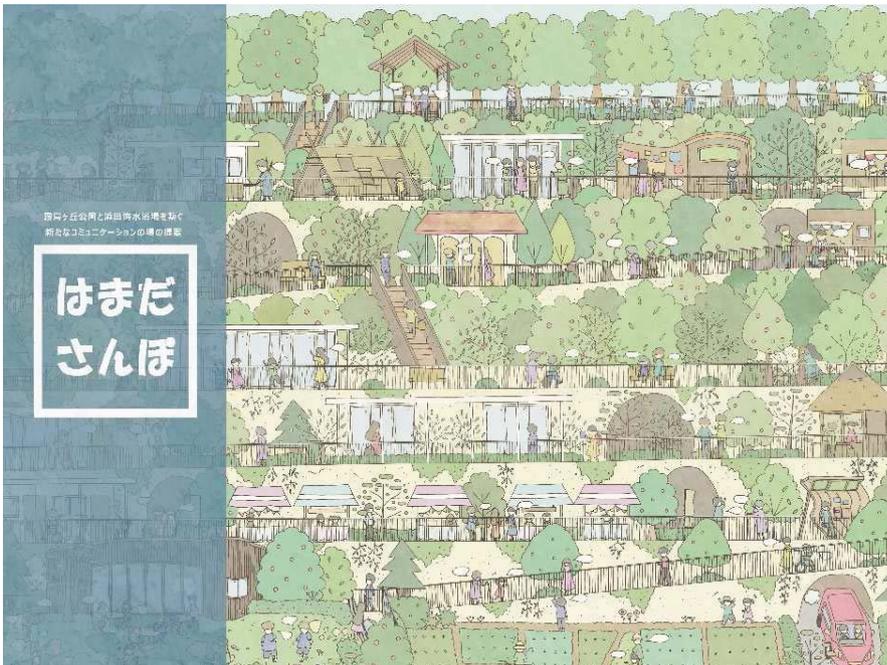
空気が希薄な中での審査は作者本来の想いを汲み取る事は困難でしたが、学生の集大成である作品を会員で激論を交わしながらの審査となりました。その中でも特に熱い想いが伝わる作品に金賞、銀賞2名、銅賞2名を選定いたしました。惜しくも選外となった作品の中にも上位候補は多数あり、その差はわずかでありました。



鹿児島大学での審査



第一工科大学での審査



カンショウ工房
— 緑地公園に建つ入居者のものづくり施設 —

編集後記

桜が満開に近づき、心地よい春の訪れを感じ、コロナ禍の2021年度を振り返りながら、新年度への期待が高まってきました。年度末のお忙しい時期にも関わらず、執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。オピニオンでは8名の各地域会長、代表幹事に「地域会長・代表幹事として2年間を振り返る」をテーマに執筆いただきました。就任された2年前は感染が拡大し始め、緊急事態宣言が発令され活動が大きく制限され始めた時期。先が見えにくい状況でもできることを新しい形で地域会を導いていただきました。2年間ありがとうございました。今回で4回目になる「支部長漫遊記」は2月24日にユニットで活動されている2組4名に登壇いただき、福岡地域会公開例会（WEB配信）も兼ねて開催されました。場所や建築に固執せず様々な分野とコラボレートし、建築以外の価値も生み出している姿は新しい時代の建築家像を感じます。支部長の激励の言葉や70名を超えるオンライン視聴者数から期待の高さが伺えます。若手建築家ユニットの活動内容、パーソナルは明快な文章と写真で福岡地域会の智原さんに執筆いただきました。「おしえて」では佐賀大学平瀬准教授に執筆いただきました。設計実践や地域に根ざした共同研究、フィールドワーク等など実践も踏まえた幅広い研究活動は学生にとって貴重な経験となり、若い世代の建築力向上につながっていくことと思います。JIAマガジン2020年10月号〈スタジオ拝見・大学で教える建築家の建築家教育〉も合わせて是非ご覧ください。修復塾をとおして熊本地震で被災した江戸時代後期の建物を修復された経験を松島さんに執筆いただきました。棟梁・職人さんの技術、各専門家の知見、自身の職能によって見違えるほど修復された建物はこれからも施主さんや地域に愛され続けていくことと思います。修復塾が見つけない力が江戸時代後期から続いた歴史をいままで以上長く未来へ続いて行くのではないのでしょうか。宮崎さんに地域に根ざしたJIA活動や生い立ち、将来の夢、音のこだわりを紹介いただきました。世代間をつなぐ地域活動の大切さに共感いたします。特許レベルのスピーカを自作するバイタリティに驚きながら、おそらく重低音である「桜島の音、大地の音」と美しい薩摩富士に大変興味を持ちました。東大森さん『私の3つの宝物』の文中にあります「思い出の品と戯れ、思い出の品を愛でる」に宝物に囲まれて、宝物と一緒に過ごす時間の多幸感を感じることが出来ます。物と戯れ愛すことにより、宝物と対話ができ、出会った時にタイムスリップできる素敵な体験を紹介いただきました。池浦さんに27回目を迎える「DR2022」、重田さんに「DR高校生レポート」、中山さんには実行委員長からの視点で活動を報告していただきました。3年ぶりの対面開催で学生の熱量を感じることができ、クリティークとの議論も熱く行われました。参加者にとって大変貴重な経験になったことと思います。2年間オンラインだったため、実行委員は対面運営未経験。開催会場が制限され、会場運営、WEB配信と困難な状況下で素晴らしいオペレーションを実現いただいた中山さんを始めとする実行委員に対し、座談会終了後クリティーク全員、司会者からお褒めの言葉をいただいたことも報告いたします。「わさもん」では新入会員の平松さん、宮崎さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆していただきました。来年度から対面でお会いできることが増えてくると思います。これからよろしく願いいたします。来年度は今までのコーナーを見直し、新コーナーを設け、常にアップデートを行いながら今まで以上に充実した誌面づくりに努めていきますので何卒よろしく願いいたします。

広報副委員長 有吉兼次

BULLETIN Kyushu BRANCH



九州で活躍する建築家のための情報誌

The Japan Institute of
Architects Kyushu branch

公益社団法人 日本建築家協会九州支部

MAR.2022